

平成18年度 施策評価シート

総合計画における位置付け等

平成18年 月 日記入

基本目標	学びあいあたたかさのある福祉文化都市をめざして	施策コード	16110
政策名(章)	第6章 彩りのある市民文化を創造します	評価担当部	企画部
基本施策名(節名)	第1節 多彩な市民文化の振興	評価担当課	文化国際課
施策名	豊かな市民文化の創造	課長名	江成 朱美

1 施策の目的・概要(目的はわかりやすく記入)

市民の自主的な文化活動への参加や発表の機会の充実に努めるなど、多彩な市民文化活動を支援するとともに、文化を担う人材の育成や、企業の文化活動を促進します。また、市民文化財団との連携を強め、質の高い芸術文化の鑑賞機会の充実など、市民の芸術文化への理解を深めます。
市民文化祭や市民ギャラリー等での文化活動の発表の場の提供や文化協会等の自主運営支援を進めるとともに、市民文化財団の管理する文化ホールにおいて、それぞれの施設の特徴や特性を生かし、市民の多様なニーズに応える多彩なジャンルにわたっての事業展開に努めています。人材登録制度の創設や文化振興基金の創設、企業の文化支援活動の促進については、具体的な伸展は図られていません。

2 事業費・人員

年度	平成14年度(決算)	平成17年度(決算)	増減の主な理由
事業費		1,711,691	平成17年度において、文化会館の大規模修繕があったこと、文化施設の管理運営費に施設分の人件費を計上したこと等から、決算額が大幅に増加した。
人件費		23,023	
市民一人あたりの事業費	758	2,601	
合計	466,825	1,734,714	

*人件費は、職員一人あたり H14:839万円、H17:805万円として算定。人口は、61.6万人(H15.4.1現在) 66.7万人(H18.4.1現在)とした。

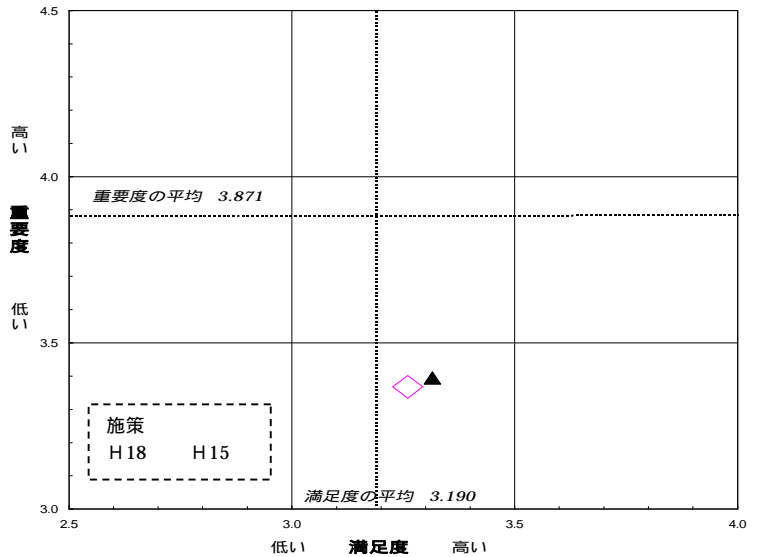
3 成果・活動指標

	指標名	指標の基準値の定義	基準値(単位)	基準年度
指標1	文化施設(文化会館大ホール)の年間利用率(%)	H16利用日 / H16利用可能日 × 100	91.6 (%)	H16
指標2	文化施設(社のホールはしもとホール)の年間利用率(%)	H16利用日 / H16利用可能日 × 100	76.0 (%)	H16
指標3	市民文化祭への参加者数(人)	H16参加者数(H16目標人数2500人)	2314(人)	H16
指標4	学生企画展覧会の参加学生割合(%)	H16入場者数(19人) / H16目標参加学生数(30人) × 100	63.3(%)	H16
指標5	市民合同演奏会の入場者数(人)	H16入場者数(H16目標入場者数1600人)	1501(人)	H16

	H17目標値/実績値	中間年度	中間年度の目標値	最終年度	最終年度の目標値	目標値の考え方(根拠)
指標1	100 / 95.7	19	100%	21	100%	現状も高い利用率を維持しているが、さらなる利用率の向上を目指す。
達成率	95.7 %					
指標2	100 / 84.1	19	100%	21	100%	現状も高い利用率を維持しているが、さらなる利用率の向上を目指す。
達成率	84.1 %					
指標3	2500 / 2022	19	2,500人	21	2,500人	市民文化祭への作品出品などの参加者数を目標値とした。17年度から有料化したため参加者数が減少した。
達成率	80.9 %					
指標4	100 / 63.3	20	100%	22	100%	展覧会企画等、美術分野で活躍していく人材育成の施策として、事業の参加スタッフ及び作家数を指標にした上で、事業規模、施設面積等を勘案し、30人を目標値とした。
達成率	63.3 %					
指標5	1600 / 1334	19	1,600	21	1600	合同演奏会への入場者数1600人(会場グリーンホール相模大野の約90%)を目標値とした。
達成率	83.4 %					

4 市民満足度調査結果(平成18年度実施分)

この施策の満足度は3.260で51施策の中で15番目。
 重要度は3.368で51番目である。
 改善要望度は - 0.4051で51番目である。
 年齢別にみると、満足度、重要度ともに50歳代以上で高く、40歳代で満足度がもっとも低く、30歳代で重要度がもっとも低くなっている。
 前回調査と比較すると、満足度、重要度とも施策の順位に大きな違いはみられない。
 満足度の順位では、50、60歳代で前回調査より上がり、20、30歳代、70歳以上で大幅に下がっている。
 重要度の順位では、40、50歳代で前回調査より上がっている。



5 1次評価(3つの視点から評価を行う)

視点の種類	評価基準・着眼点	評価点	それぞれの視点に対して評価の具体的根拠	
有効性	各事業が果たす施策に対する目標の達成度合いを把握し、効果の高い事業を実施している	4(2)1	・市民文化財団の自主事業等で多様なジャンルの芸術文化を年間約100事業実施することで、市民文化の向上に寄与している。 ・市民の自主的な文化活動及び発表機会として、市民文化祭を実施してきたが、市民主体による実行委員会主催に移行し、新たな市民文化活動に発展している。 ・市民の自主的な音楽活動として定着している合同演奏会への入場者数も順調に増加している。 ・市内唯一の公設施設である市民ギャラリーでは、年間4万人を超える市民が様々な美術を鑑賞している。また、隔年で実施している学生企画展により、美術新入材が発掘されている。	
効率性	最少経費で最大効果が得られる事業構成となっている	4(2)1	・市民文化財団は市からの補助金が削減される中、自主財源の確保に努め、質の高い事業を展開している。 ・市民文化祭については、17年度から市民による自主運営化に移行し、市からの補助金が削減されるとともに市職員の人件費も大幅に削減されている中で、市民とのパートナーシップにより、事業規模を維持している。	
市民満足度	市民満足度調査により市民ニーズを把握し、市民の立場に立って事業展開している	4(2)1	・市民文化財団の自主事業のうち特に「市民参加・支援・創造事業」では、身近な場所である公民館でのコンサートやワークショップを通して、市民の文化意識の向上に努めている。	
合計		6	評価結果に基づく区分(4項目の合計点数による) A(12から10点) B(9から5点) C(4点以下)	
				1次評価
				B

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

6 課題と解決策(現状または、評価結果から)

課題	・市民満足度調査によるこの施策の重要度は51施策中51位であり市民の関心が低いことから、市民の文化に対する意識を高めていくことが必要である。 ・市民の文化活動における高齢化が進んでおり、次代を担う若者層の参加が必要である。
解決策	・小中学生などが芸術文化にふれる機会を増やし、市民の文化意識の向上に努める。 ・市民文化祭を構成する一部の文化団体においては、講習会等により人を増やしており、このような活動事例を紹介するなど、市民文化の更なる発展に努める。

7 2次評価及び意見(1次、2次で評価に相違がある場合など、必要に応じて意見を記入)

成果をあらわす指標の設定が難しい施策であるが、課題解決の成果を測る指標として、市民の意識を測る指標の設定が必要である。	2次評価
	B

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

8 3次評価及び意見(評価結果及び課題・解決策について、必要に応じて意見を記入)

施策の重要度が低い原因を分析し、重要度向上のために何をすべきか具体的に示すこと。 市民の芸術文化への理解を深めるためには、ソフト面の事業を充実させる必要があり、効果的な手法を検討し、事業の優先順位付けに活かすこと。	3次評価
	B

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

